

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験追跡調査結果（R3～）

（避難貝追跡調査〔2年貝〕）

（調査日：令和4年8月17日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として、昨年度実施したリスク分散試験の試験貝を引き続き調査し、2年目以降の貝の状況について明らかにする。

2 試験区の設定

- 宇和海北部の西予市、宇和島市で昨年度の試験後に一部残して継続飼育している貝と、試験後に南部漁場へ移動して飼育している貝及び当初から南部漁場で継続飼育している貝を用いた。
- 各地点の日中交雑貝を調査し、地点間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地点すべてで、異常死は見られていない。
- 貝殻内面の変形（段）が、北部漁場で継続飼育している貝で0-40%、南部に移動した貝で0-50%確認されているが、いずれも昨年度中に形成されていたものとみられる。
- 7月には北部でグリコーゲンの量が高い地点がみられたが、8月では全体に減少していた。
- 漁場全体で放卵（7月より成熟度が下がっている）が進んでいるとみられた。

8月17日調査									
漁場	地区	系統	殻長 (mm)	全重量 (g)	グリコーゲン 含量(%)	卵の成熟度* (5段階評価)	外套膜 萎縮	褐変	貝殻内面 の段
北部	西予市	日中交雑貝	59-60	6.5-7.1	2.8-3.9	1.4-3.2	0%	0-40%	0-40%
	宇和島	日中交雑貝	53.0	5.3	4.3	3.2	0%	40%	30%
北部→南部	西予市→愛南町	日中交雑貝	59-63	7.2-8.7	1.8-2.6	2-2.9	0%	0-10%	10-50%
	宇和島市→愛南町	日中交雑貝	56.0	6.6	2.5	1.5	0%	0%	20%
南部	愛南町	日中交雑貝	59.0	7.3	2.6	1.2	0%	0%	0%

*値が高いほど成熟が進んでいる

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に10個体を水産研究センターに持帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。